

バイスリープロジェクト株式会社

宮城県仙台市

需要獲得
ものづくり

AIを活用した塗装外観検査システムの開発へ挑戦 海外展開も視野に入れ積極的に活動する

「技術による社会貢献」を経営理念に掲げ、東北から新しい技術を発信すべく最新の技術にチャレンジするものづくり企業。計測・制御システムの受託開発、および車載用電装機器の組込マイコンシステムのソフトウェア受託開発を行う。ソフトウェア開発に加え、ハードウェア開発まで一貫して取り組める技術体制が強み。これまで目視検査に頼られてきた自動車車体の外観検査の自動化を可能とする表面欠陥検査ユニット「SSMM-1R」を開発。2017年、経済産業省より「地域未来牽引企業」認定。

所在地 宮城県仙台市若林区卸町東2丁目1-23
電話/FAX 022-290-5258 / 022-290-5258
URL <https://www.x3pro.co.jp>
代表者 代表取締役 菅野 直

設立 1987年
資本金 1,000万円
従業員数 33人



AI技術を用いた塗装外観検査技術の開発を産学連携で取り組む

自動車などの外観検査は目視による検査が一般的だが、検査員による検出精度のバラツキや見逃しもあり、自動化が喫緊の課題となっていた。そこで同社では、独自技術であるSSMM法により塗装面やガラス面など光を反射または透過する製品の欠陥を高精度に検出する表面欠陥検査ユニット「SSMM-1R」を開発。さらなる改良を目指し、搬送ラインを止めずに欠陥を検出する高速処理化を実現するため、経済産業省のサポイン事業を活用し、塗装外観に特化したAI画像処理システムを東北大学の学術指導を受けて開発中。



表面欠陥検査ユニット SSMM-1R

J-Good Techを活用し海外展開も視野に入れた活動

中小企業整備機構が運営するビジネスマッチングサイト「J-Good Tech(ジェグテック)」を活用。J-Good Techサイト内に専用ページを設け、同社が得意とする光沢製品(メッキ品、塗装品など)、透過製品(ガラス、レンズ、フィルムなど)といった光を反射または透過する表面の外観検査の効率化を図る製品を国内のみならず海外に向けたアピールも積極的に行う。今後も、「自らの技術がどのように社会を変え発展させられるか」を常に考え、日々進化するテクノロジーマーケットの先端を開拓していく。



ウェブサイト内英語対応ページ

産学連携活動を基軸に革新的モノづくりを支援「マシンインテリジェンス研究会」

当研究会が保有する人工知能(AI)をはじめ、センシング・画像処理・通信技術により、Society5.0が目指す社会を実現、少子高齢化・地方の過疎化などの課題を解決し、一人ひとりが快適で活躍できる社会を目指すべく、県内事業者のみならず大学、行政機関が連携した「マシンインテリジェンス研究会」に参画。宮城県内のIoTビジネスの活性化、宮城県内企業が持つICT技術の活用、そしてビジネスの創出を推進するコミュニティとしての役割を果たしている。



「マシンインテリジェンス研究会」ロゴ

需要獲得

ものづくり